**もっと大きな事に運命づけられて 5/14/17**

**第一ペトロ　2:2-10　スティンストラ牧師**

**母の日のカードを選ぶのにあまりにも考えすぎてしまうことに少々罪深い思いがあるのだが、大人になってから私の母へのカード選びにはずっとむずかしいものを感じてきた。ユーモラスなカードのセクションに並んでいるカードはどれも面白くなく、ほかのセクションを見てもどれも私の洗練された感情を母に対して表現してくれるものはない。甘いシロップのような類のカードには、これほどのものはないと思えるような言葉が書かれているが、どれも母を聖人あつかいしすぎているように思うのだ。**

**間違って欲しくないが、私は皆さんの前で私の母が今もそして今までもずっと私と私の兄弟にとってすばらしい親であったことを公言したいと思う。しかし、多くの皆さんがそうであるようにルター派教会に生まれた運命ともいうべきなのか、彼女自身が自分の欠点をよく承知しているのだ。彼女には中西部育ちの性格があり、本当にすばらしい努力をしてきたのだが、それを控えめに称える必要があるのだ。人間がとても推測し得ないような完璧さが熱く表現されているようなカードを私の母に送ることは、かえって逆効果であり、正直ではないことになってしまうのだ。最終的には彼女が私が褒めたたえたいレベルのことを感じてほしいのであって、彼女が首を回していったいそんな人がどこにいるのかと探してしまうほどに彼女を傷つけてしまうようなことをしたくはないのだ。かといって私はどんなカードにも、私が自筆の言葉を加える。それはあたかもカードにあらかじめ書かれていた言葉が彼女を称えるのには十分ではないかのよう印象をあたえるのだ。**

**今日の日課に与えられた第一ペトロには、思いもしなかったような言葉があり、今私が話したような状況と似たような状況が現れているように思う。信じられない驚きをいだくほどに、著者は控えめな教会の人々に次のように述べている。「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。」その民とは「暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を広く伝えるための」高い特権のために選び出された民である。**

**いったいこのような言葉がどこから来たのだろか？　たぶんこの著者はホールマークの従業員の先祖ではないだろうか、というのは、その言葉を与えられた者のなかにはだれもがそのような荘厳な言葉を受けるに値するような人間はいないと思えるからだ。実際に、小アジア北西部にいた初代のキリスト教徒たちは、もし彼等のことを慈しみをもって表現するならば、当時の有力者や影響力の大きい人々とは似ても似つかなかった。より客観的に表現するとしたら、想像できるローマ帝国の人々とは大きくかけ離れたおり、彼等は引っ込み思案であった。一生懸命に働いても収入はあまり得られず、日々の生活をやっと営んでいたような状況で、生活は改善せず、彼等はしばしば耳障りな存在として扱わていた。運命的に高い地位に選ばれたのだからという理由で特権階級にいるのは当然であると考える人々からは、不利をこうむる扱いを受けた。しかし、ほとんどのところ、彼等はただ無視され、忘れられ、関係のないものとされ、犠牲となった。キリスト教の信者たちは少数派で、だれも彼等に興味を示すものはいなかった。彼等は神の国においてもっと大きな事のために運命づけられた者たちと解釈された。**

**それではなぜ目立たない人々が神の支配のなかでこれほどの崇高な者たちなのだろか？　第一ペトロの描写はあまりにも現実とは異なっているのではないだろうか？　客観的な事実として、宣教者パウロによって次々に著された尊厳な肩書き、それは誤まった呼び方だったのか？　選ばれた、洗練された、また栄光に値する人々が、集まっている集団なのだろうか？　これらの表現はあまりにも的をはずしていて、残酷な猿たちのことであると解釈されてしまってもしょうがない。あるいは、初代のクリスチャンたちはただ彼等だけで、世間が見ているより自分たちが重要な存在なのだと信じているだけのことだと解釈されてもしょうがない。**

**しかし、そのことがまさにポイントなのだと思う。　神は初代教会に神が選んだ人々がばかばかしいほどに低い値が書いてある値札よりかどんなにか高価な存在であるかを自分たちでわかって欲しかった。 輝かしいビジョン（肩書き）を分かち合うことで、すべての初代キリスト教徒がより崇高な聖なる目的のために召されており、神は決して偽りの希望を示すのではなく、この現実とは異なるかのように見えるビジョンこそが究極的な真実であることを示そうとした。神は彼等を特別であると話されている時、ただ物事を現実より良く見せたり、真理をちょっと引き上げて見せるようなことをされているのではない。　むしろ私たちが限界だと思ってしまわずに、神の神聖な視野は私たちが見えている範囲だけに限定されているものではないことに気づくように導いている。神は表面の下に隠されていることまで見ている。　天におられる父の目には、彼の子供たちが現在の低い地位にとどまっているのではなく、この世がはじまったときからずっと王なる神のかけがえのない子供たちに見えている。神は子供たちのことを明瞭に表現しようとするとき、普通の人が表現するようにではなく、彼が下図をつくった際の偉大さを通して示そうとする。それゆえに、神は現在の彼等のみすぼらしい姿から、神がもともと心の中に描いていた勇敢な姿を選び、初代キリスト教徒たちに、彼等が可能性に満ちた命に生きるよう激励している。**

**そして神は今日においてもその通りなのだ。困難の中にある神の教会に対して、とくに現代は、キリスト教徒の時代が終わったなどと解釈されて、教会はしばしば台頭してきた異なる文化のなかで脅かされ、教会がしていることは時代錯誤でまるで意味がないかのごとくに思われてしまう。しかし、万能の主は言われる、「いまから言うことをよく聞きなさい。あなたを、そうあなたのことです、もっと大きな事に運命づけている。」　ちょっとばかげているかのように聞こえるかもしれない。しかし私たちのような著名人の名簿に入っていないような人々にとって、今日の時点ではあまりそぐわない使命に導かれているのだと気づくとき、強められ確信を持てる。神の御業を宣教するために私たちが選ばれたと神が話されることで、今この復活ルーテル教会自身が神の目を通して、崇高な仕事内容を見つめて積極的にその仕事に取り組むように神が導いている。**

**それは私たちに見えている現実の生活より、神がもっと多くのことを考えておらえることがわかるようになる。　天の父なる神は、神の愛する民が表面的に現れているわなにかかってしまうようなことを好んではいない。　神はいまここにおられ、みなさんを御国の復活の豊かさへと招待している。神が賞賛する仕事に向かってできないのではないか考えて首を横に振ってしまい、自分自身を傷つけてしまうことにならないようにして欲しい。　神はみなさんに話している、まさに今日の朝、神の力強い約束の言葉を。それはまさに彼の心の中で、あなたを特別な子としてはじめてに創造したした時の最初の計画通りに。きらびやかなカードに描かれた言葉と同じようで、惑わされたり否定したくなるように、最初は聖書に書かれた崇高な肩書きは無意味なことだと思われてしまうかもしれない。　しかし自分自身を、その言葉に浸すとき、みなさんが神の表された感情が本物であることに気づくだろう。神のビジョンの真髄は突如としてあなたの魂を持ち上げ、あなたのルター派教会員としての遠慮がちな面が、神が話していたすばらしい驚くほどの人へと変えられることだろう。　アーメン**